

## 2021年（令和3年）度事業の基本方針

今年度は、財団設立35年目の節目の年を迎えるが、新型コロナウイルス感染症も収束の目途がたたず、日常生活が取り戻せるまで、まだ数年間は混乱が続くのではないかという見通しもある。そのような中、様々な活動が中止、延期等の制約を受けたり、多人数が集合しての会合が難しい状況が続くが、弾力的に活動を行う。

基本的には、2019年度に再編した事業分野を継続し、粛々と事業を推進していくが、アフターコロナの時代に対応するため、過去のアーカイブ、今後の公募助成電子申請化を進めていく。

### （1）基本的な考え方

- ・ 2019年度に再編した事業分野を継続する。
- ・ 周年事業として、基盤整備を重点的に行う。過去の助成事業アーカイブと2022年度から実施可能な「電子申請」システムをつくる。
- ・ 国、岡山県等の指導基準を参考に、助成団体に対して柔軟なコロナ対応をとり、財団関係者等の安全、安心を確保する。
- ・ 福武財団、ベネッセこども基金と情報交換、連携を深める。とりわけ、コロナ禍の対応においては相互の知見を活用する。

### （2）表彰事業

- ・ 受賞者の特典である「受賞後3か年の継続助成」が活用されるよう、個別、具体的に支援する。
- ・ 賞の周知を高め、推薦数を増やすために、新たな候補者を掘り起こす具体的な取り組みを行い、関係先と連携する。

### （3）助成事業

- ・ 助成財団をフォローする地域毎のオンライン情報交換会を継続的に実施し、従来以上に、助成団体相互間の啓発や連携を促進し、地域振興の仲介的な役割を果たす。
- ・ コロナ禍の状況によっては、昨年度同様緊急助成の実施等、有効な手段をタイムリーに実施する。

### （4）コロナ禍で将来が見通しづらい環境にあるが、過去の事業成果を確認しつつ、新たな成長に向けて再度、運営体制、事業内容の充実を図り、着実に推進していく。

# 2021年(令和3年)度の事業計画

(単位：千円)

## 公益目的事業Ⅰ 教育文化活動支援事業 (定款第4条1項第1号)

予算総額 130,840 (前年度当初 126,140 今回補正後 124,810 ※共通経費を含む)

### 1 表彰事業 予算総額 2,800 (前年度当初 3,000 今回補正後 2,580)

… 「福武教育文化賞」の第3回目となる。将来、地域振興の担い手となることが期待される個人・団体を表彰できるよう、更に周知に努め、推薦数の増加を図るとともに、福武らしい受賞者を顕彰する。贈賞式は、単独開催とする。

#### 福武教育文化賞

《目的》 岡山県の教育文化の振興に顕著な業績をあげ、今後の更なる貢献が期待される個人・団体を表彰し、功績を称えるとともに後進の目標とする。

《対象》 岡山県内に在住又は岡山県に関わりのある者に贈るものとし、岡山県の教育文化の向上に著しい貢献が期待される個人又は団体を対象とする。教育、文化の両面から地域課題に取り組み、地域振興への貢献が出来ていることを重視する。

《推薦》 岡山県教育委員会、市町村教育委員会等教育関係団体、報道機関等からの推薦

《賞》 表彰状、賞牌及び副賞(30万円) 賞は3~5件程度

《選考》 選考委員会で選考し、理事現在数の2分の1以上の同意を得て理事長が決定

《予定》 5月告知、6~7月推薦受付、8月選考委員会、10月贈賞式

### 2 助成事業 予算総額 54,570 (前年度当初 46,270 今回補正後 48,800)

… 「教育文化活動助成」として、教育及び文化の視点から地域振興を図る活動全般に助成する。贈呈式、成果報告会・交流会は、単独での1回開催とするが、新型コロナウイルス感染状況により、分散開催、オンライン等で代替する。

また、特定助成は、前年度に引き続き、①先進的事業助成、②グローバル化事業助成、③瀬戸内文化育成助成の3分類とする。

#### (1) 教育文化活動助成(公募) 予算額 33,530 (前年度当初 35,200 今回補正後 33,400)

《目的》

教育及び文化の視点から地域振興を図る活動による人づくり・地域づくりを応援し、地域が活性化することを期待し、教育文化に関する有意義な実践活動等を助成し、地域の教育文化振興に貢献する。

《助成対象となる活動》

教育又は文化を手段に用いて、岡山県内で実施される地域社会の課題解決と社会的価値の創造を図る活動(教育文化の質の向上も含む。)申請区分は、以下の4類型

1. 教育及び文化芸術による地域社会の課題解決や社会的価値の創造に取り組む活動
2. 教育及び文化芸術による次世代育成に取り組む活動
3. 教育の質の向上や普及に取り組む活動
4. 文化芸術の質の向上や普及に取り組む活動

《助成額》 原則 1 件当たりの上限は 30 万円

《期 間》 2021 年（令和 3 年）度中に実施する事業

《審 査》 審査委員会（4 部会 16 名）で審査し、理事現在数の 2 分の 1 以上の同意を得て決定

《予 定》 12～1 月 申請受付、3 月 審査委員会、4 月 事業開始、10 月 成果報告会・交流会

**(2) 福武教育文化賞受賞者フォロー助成 予算額 1,800 (前年度当初 1,800 今回補正後 1,500)**

《目 的》

福武教育文化賞の受賞者に対して、受賞後も継続して質の向上と人づくり・地域づくりの活動を行うことを促すため、受賞後 3 ヶ年 30 万円を限度として申請に基づき助成する。6 件相当。

**(3) 特定の特色ある活動に対する助成 予算額 18,740 (前年度当初 8,770 今回補正後 8,460)**

教育文化活動支援のうちで、公益性が明確で、継続的に支援しなければ効果的でないものに以下の 3 分類に分けて、助成する。

**① 先進的事業助成 予算額 16,300 (前年度当初 4,200 今回補正後 4,200)**

新たな教育文化的価値の創造に寄与する先進的かつ実践的な活動を行う団体等に対して助成

- ・岡山大学国吉康雄寄付講座（10,500）（昨年度までは 30 周年記念事業として実施）
- ・高校と地域の連携・協働を推進する活動（岡山県次世代教育サミット実行委員会、井原市ひとづくり実行委員会、邑久高等学校セトリー等へ計 1,800）
- ・学校出前講座事業（岡山県文化連盟 1,000）
- ・多様な芸術文化鑑賞支援（岡山県立美術館「岡山の美術」活性化事業 2,000、クニヨシパートナーズ 500、対話型鑑賞支援 300 他）

**② グローバル化事業助成 予算額 1,500 (前年度当初 3,630 今回補正後 3,630)**

**ア) 英語力向上につながる研修事業への助成 (1,200)**

小中高校生に対して、各地域で行われる実践的な英語力向上事業に対して助成する。

（備前まなび塾+英語体験教室、矢掛町外国語教育推進研究会、和気町グローバル人材育成プロジェクト、たまのステューデントガイドプログラム事業）

**イ) 日中青年交流事業（岡山県日中教育交流協議会 300）**

昨年度までは岡山県及び中国の高校生が相互に訪問交流し、学校授業や行事、ホームステイ等を通じて相互理解と友好を深める STUDENT EXCHANGE 事業に対して助成をしていたが、コロナ禍により今年度はリモートでの交流に対して助成する。

**③ 瀬戸内文化育成助成 予算額 900 (前年度当初 900 今回補正後 600)**

瀬戸内文化の育成、創出のために必要なプロジェクトに対して助成する。（たまの☆おもてなし推進委員会、玉野こども芸術アプローチ等）

**(4) 公募助成に準じる緊急を要する等の助成 予算額 500 (前年度当初 500 今回補正後 5,440)**

年度途中で申し出のある緊急を要する教育文化活動に対して助成する。

**3 研修会等開催事業 予算総額 1,600 (前年度当初 1,000 今回補正後 660)**

35 周年記念第 10 回フォーラムを実施する。実施形式（集合、オンライン配信、併用）等については、コロナの影響により、開催時期、場所等により流動的に対応する。

また、助成団体を主な対象として少人数の勉強会方式で実施している「andF 教室」は、助成先の要望を考慮して、年間 3～5 回程度、原則オンライン形式の開催とする。

#### 4 調査研究事業 予算総額 1,570 (前年度当初 1,570 今回補正後 200)

昨年度、コロナ禍で順延した下記の2件を実施する。

- ・ 助成事業における追跡調査(公募助成事業の追跡調査)  
過去に助成した団体への追跡調査アンケートを実施し、分析、ヒアリング、総括を35周年事業として実施する。
- ・ 小学生の美術館体験事業  
実験的な取り組みとして、美術館や小学校、文化団体等と連携し、小学生の美術館体験が持続可能となる仕組み作りに取り組む。

#### 5 主催公演事業 予算総額 0 (前年度 0)

ベネッセホールディングスの配当金が以前の水準に戻るまで休止する。

(参考)

この事業は、2018年度に「新岡山のいろ・かたち」事業(岡山から全国、世界に発信できる芸術文化の公演を行う。岡山の誇れる文化や芸術、またそれらが交流連携した新たな魅力が発信される公演機会を年に一度、Jホールで提供する)として新設した。ところが、その直後、ベネッセホールディングスの配当金が半減したため、財源不足のため現在にいたるまで休止している。

#### 6 広報事業 予算総額 6,200 (前年度当初 4,300 今回補正後 3,200)

財団の事業が積み重なっていく継続的な広報を通じて、効果的な事業を行う。

- ・ 財団公式Webサイトの改訂を実施する。
- ・ 新聞広告等従来の取り組みだけでなく、Zoom、FaceBook、YouTube等様々なツールを活用し、更なる財団活動の発信を行い、相互連携、啓発を図る。
- ・ 35周年記念誌の発刊準備をする。(来年度発刊予定)

#### 7 周年記念事業 予算総額 5,000 (前年度 10,500 : 岡山大学国吉康雄寄付講座助成分)

今年度は、財団設立35周年として、昨年度積み立てた特定資産5百万円で下記の事業を実施する。

内 容	金額 (万円)	
記念広報	100	35周年の効果的な広報を新聞広告等で実施
記念公演	100	周年事業に相応しい質の記念公演を年度内に実施
基盤整備	300	電子申請を中心に、財団基盤のIT化を進める
合計	500	

※コロナ禍のため、記念公演はオンライン配信、順延等もありうる。